

戦後80年— 忘れてはならない記憶がある



南京大虐殺から88年 2025年 証言集会

12月11日(木) 午後6時20分(6時開場)から8時半

■全水道会館 大会議室(4階)

文京区本郷1-4-1 電話 03-3816-4196

JR 水道橋駅東口から白山通り北へ徒歩3分

都営地下鉄三田線水道橋駅

A1出口から1分(*エレベーターがなく階段がきついです)

A2出口から2分(*エレベーターあり、白山通りを渡る)



証言 ■ 曹玉莉さん (父母ともに南京大虐殺幸存者の娘)



「父 曹洪康の受けた被害」

父の弟二人が殺された。ひとりは牛の世話をしているときに銃殺され、もうひとりは刺殺された。村のなかの女性の多くが強姦された。

「母 張翠英の受けた被害」

長江の川辺の葦原に隠れ住んでいる時、銃剣で刺され脚を負傷。その傷は生涯消えず、母は心の傷を負ったまま亡くなった

講演 ■ 原義和さん

ドキュメンタリー映画:「豹変と沈黙
日記でたどる沖縄戦への道」監督
……戦中日記が明かす驚くべき真実とは

主催 南京証言集会実行委員会

連絡先 ノーモア南京の会 FAX 03-3878-7280 (田巻方)

Email: nanjin1937@gmail.com

予約制ではありませんが、受付の都合上 できればご連絡ください

資料代 1000円 学生 500円 留学生無料

賛同をお願いします。 個人 1000円 団体 3000円

郵便振替 00170-3-87807 南京集会実行委員会



今年、日本の敗戦から80年となります。では、その戦争はいつから始まったのでしょうか。1941年（アジア太平洋戦争）からですか。1931年（柳条湖事件）からですか。あるいはそれともそれよりずっと前からですか。日本の兵隊が国を挙げて中国大陆に、あるいは台湾に足を踏み入れたのは日清戦争ではありませんか。それは、「野蛮な中国を文明化する」ための「義戦（正しい戦争）」あるいは「強い国の権利」だったのでしょうか。

今年、南京大虐殺から88年になります。1937年7月7日、盧溝橋事件につづいて8月15日には、近衛文麿内閣は、「暴支膺懲（あばれる中国を懲らしめる）」声明を発表し、陸海軍あげた戦争に突入しました。日本軍は首都南京への空爆を開始し、上海で、南京に向かって、そして12月13日の南京陥落以後は南京において、殺しつくし、焼き尽し、奪いつくし、そして強姦という恥すべき蛮行を繰り返しました。

日本国内は「南京陥落万歳」と歓喜に沸きましたが、その陰には多くの中国民衆に対する虐殺、蹂躪があったことを忘れるわけにはいきません。目の前で親兄弟が殺され、孤児となった子ども、強姦されて障がいを負い、心に傷を抱えたま

ま戦後を生きてきた人々がどれだけいたことでしょうか。

このところ「日本人ファースト」という言葉がはやっています。日本民族優越主義とでもいうのでしょうか。歴史を冷静に見ることをしない復古主義の政治家も幅を利かせてきたようです。

数年前から「新たな戦前」という言葉が使われてきましたが、今ことさら、「日本に対する脅威」「日本の国難」が叫ばれ、あたかも、中国を「敵国」とみなした「敵地攻撃能力の保有」「台湾有事」などと、戦争準備が当たり前のような言動が広がっています。中国の近海で、東アジアで軍事的緊張を高めているのは誰でしょうか。

日本国憲法は、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意」とうたいました。「主権者は私たち」です。戦争は私たちがとめることができます。

今回 改めて戦争の実相を知り、戦争について考えるために、12月11日（木）夜6時20分から、全水道会館（JR・都営地下鉄水道橋駅すぐ）において「南京証言集会」を開催します。

証言をいただくのは曹玉莉さん。両親ともに南京大虐殺の生存者でした。

父母の「南京」の記憶を語っていただき、戦争の実相を知って、日中の平和な未来を考えていきたいと思います。

講演は、元日本兵の日記をもとにドキュメンタリー映画『豹変と沈黙』を制作した、原義和監督。ふたたび戦争を起こさないために、かつての「戦争」の記憶から学ぶべきではないでしょうか。

